

富津市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度に係る市民アンケート

対象者：富津市に在住の方、または富津市に関わりのある方

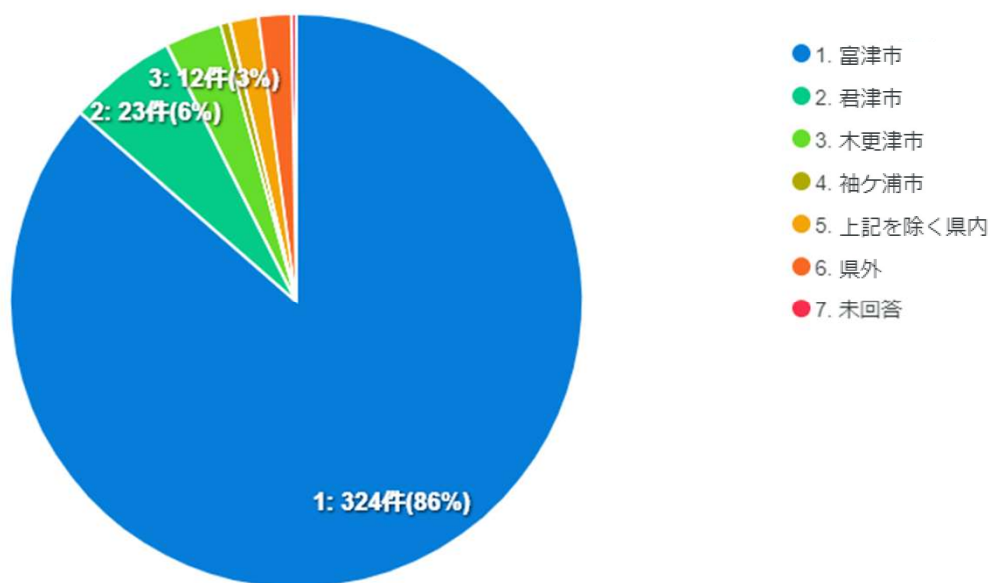
実施期間：令和5年9月15日(金) から令和5年10月13日(金)

実施方法：WEBアンケート（Logoフォーム）

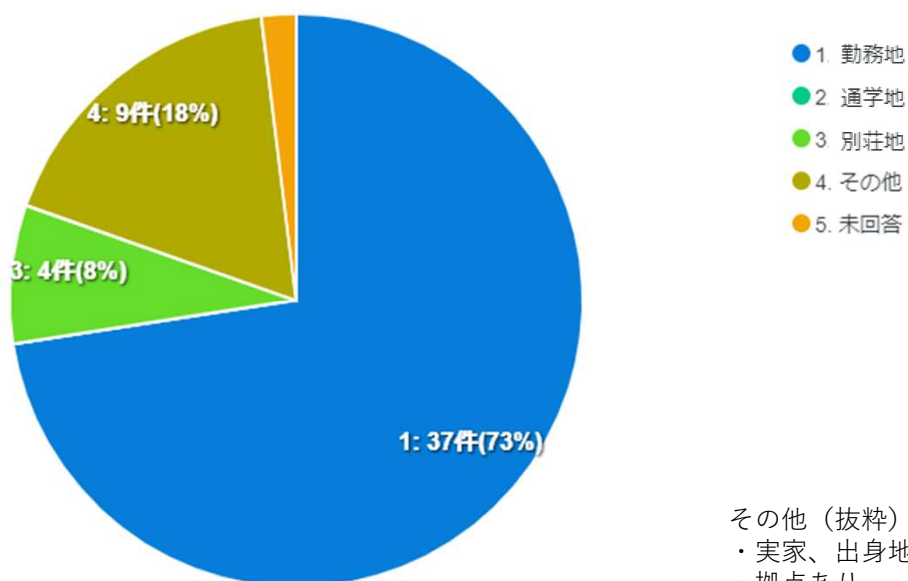
周知方法：広報紙、市HP、安心安全メール、LINE

回答件数：375件

Q1 あなたのお住まいを教えてください（1つ選択）

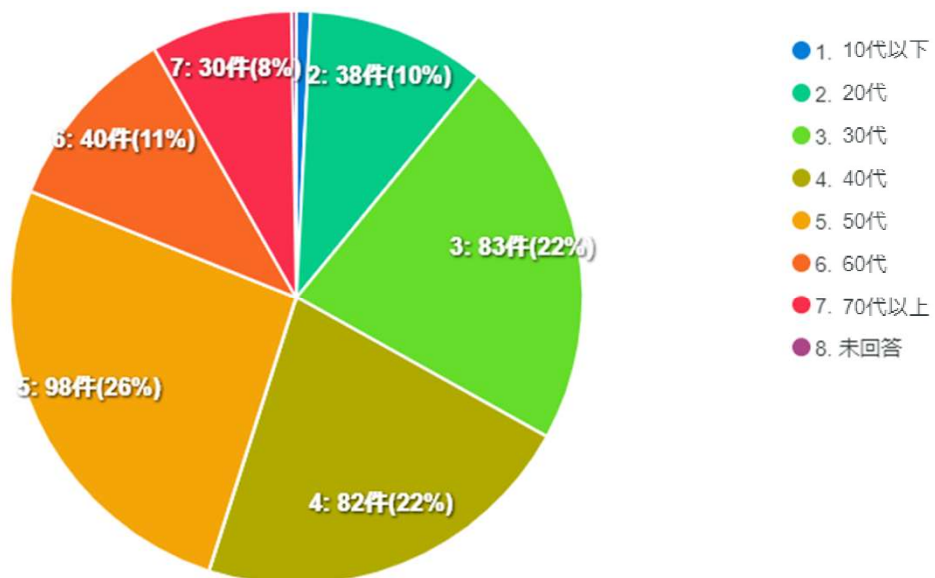


Q2 Q1で「1. 富津市」以外を回答した方に伺います。あなたと富津市のかかわりを教えてください。（1つ選択）

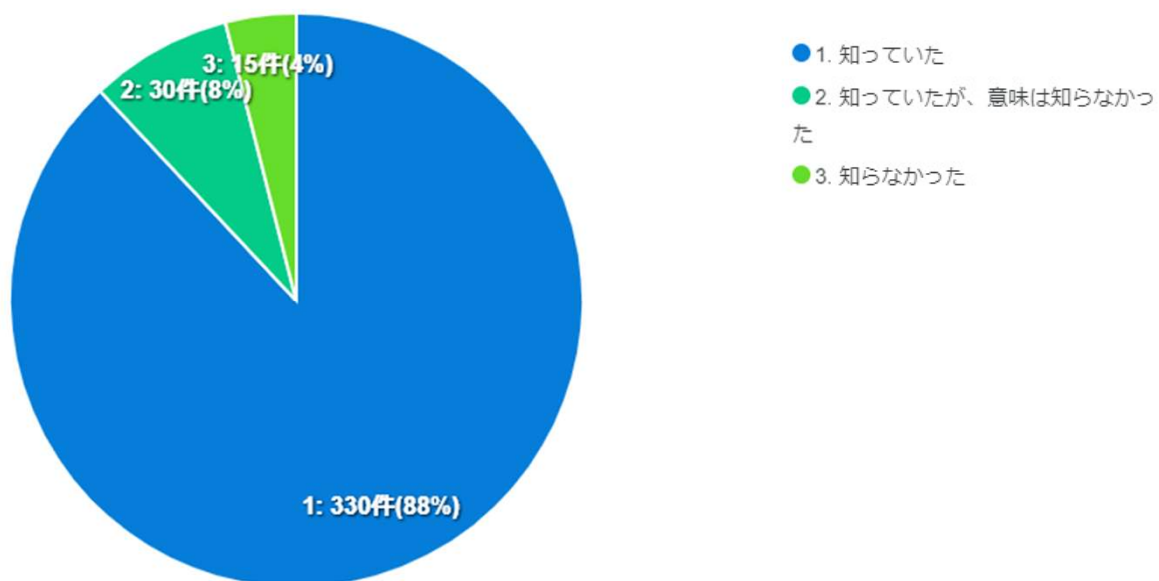


その他（抜粋）
・実家、出身地
・拠点あり
・富津市消防団所属 など

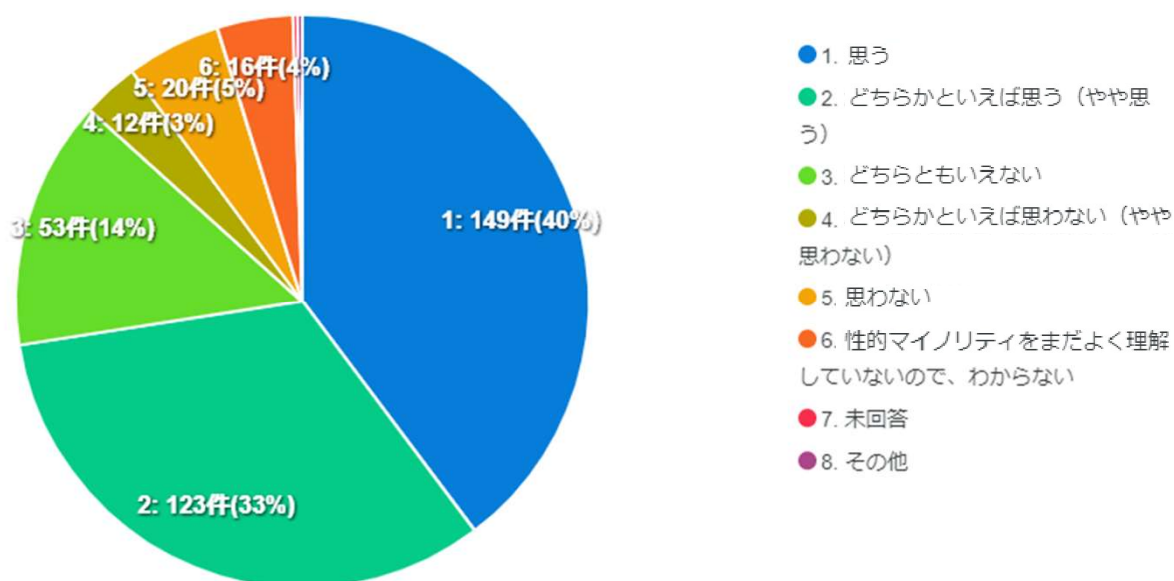
Q 3 あなたの年代を教えてください。(1つ選択)



Q 4 性的マイノリティ（L G B T，L G B T Q+など）という言葉を知っていましたか？
(1つ選択)



Q 5 性的マイノリティ（L G B T，L G B T Q+など）の方にとって、現在の社会は偏見や差別などで生きづらいと思いますか？（1つ選択）



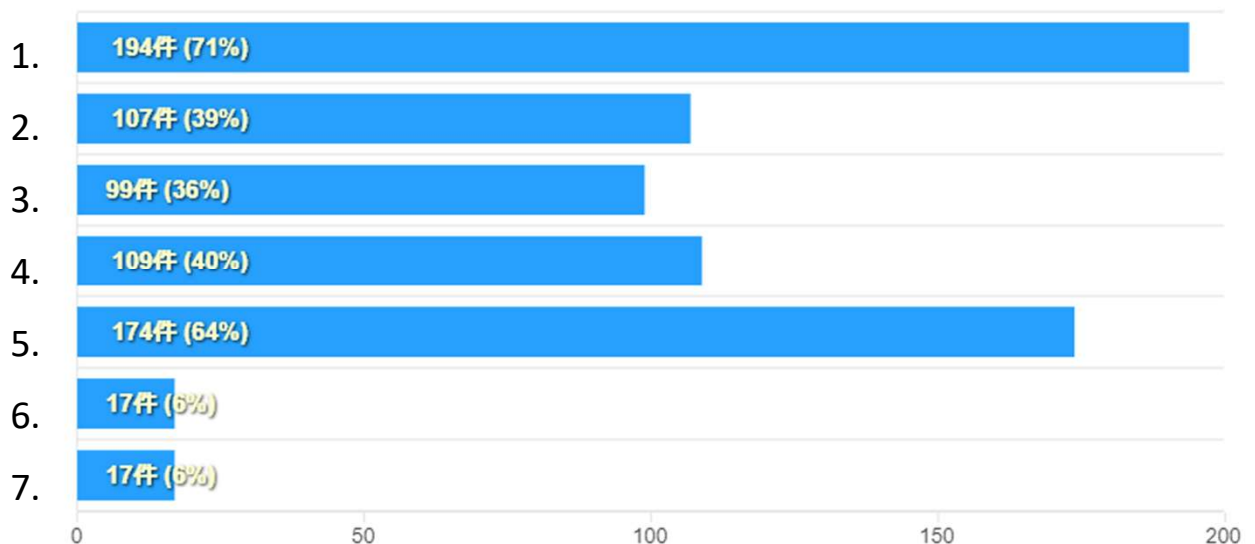
その他（抜粋）

- ・「性的マイノリティの方」とひとくくりにはできないものでないので、その方の周囲の環境や人間関係、収入状況によるとは思いますが、個人の幸福よりも慣習（公共の福祉ではない）を優先し偏見に基づく区別（結果的に差別）が根底にある行政サービスや民間サービスにより夫婦等であれば受けられるサービスが相互扶助関係にある同性の2人が同等のサービスを受けられないなどの不利益を被っていることはあると思います。

Q 6 Q5で「1. 思う」「2. どちらかといえば思う（やや思う）」と回答した方に伺います。性的マイノリティの方が生活しやすい社会にするには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数選択可）

選択肢

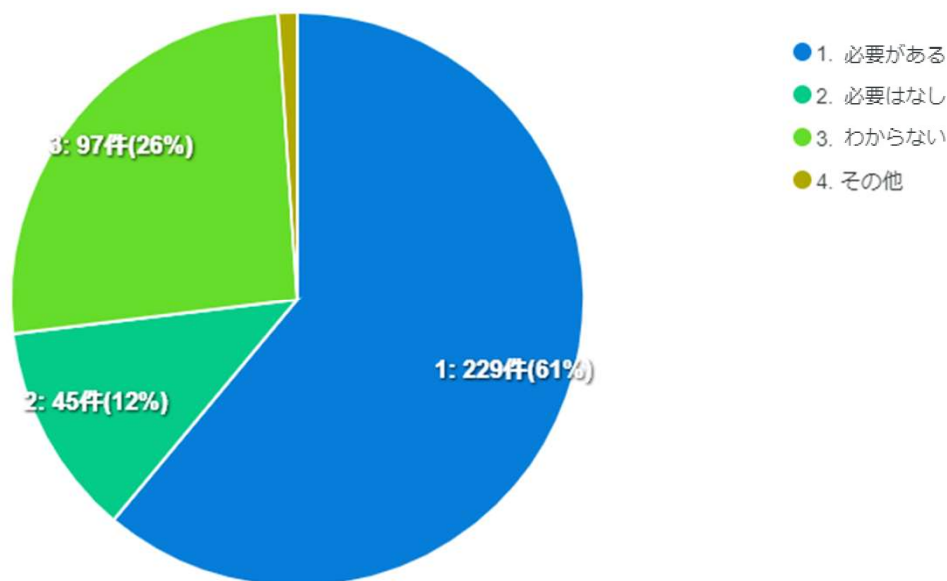
1. 学校や職場環境の配慮（制服やトイレの配慮など）
2. 専門の相談窓口の設置
3. 市の広報誌やホームページ、講演会、講座などによる啓発
4. 申請書等の性別記載欄の削除
5. パートナースhip制度・ファミリーシップ制度の導入
6. わからない
7. その他（）



その他（抜粋）

- ・性別記載欄の追加。「その他」「回答しない」の欄を設ける。
- ・控除や手当、病院等付き添い等を含む。
- ・法的承認、LGBTQ+差別禁止条例の設置。
- ・パートナーシップ宣言も入口としては必要だが、男女の婚姻と同じように家族として認められること。
- ・1人ひとりの個性を尊重することが出来る個人・社会の形成。
- ・差別、偏見を受けない自治区を設ける。
- ・小中学校での性的マイノリティについての教育。
- ・性的マイノリティというだけで批判しない。批判がハラスメントになることをマジョリティに認知させることが必要だと思う。
- ・1番を含むあらゆる場所での整備で、見える化。
- ・本当はそうでないのにLGBTと名乗って(トイレが共同になるなど)事件や犯罪が起こってしまい、本当のLGBTの人達の肩身が狭くなってしまっている現状がとても生きづらいと感じる。

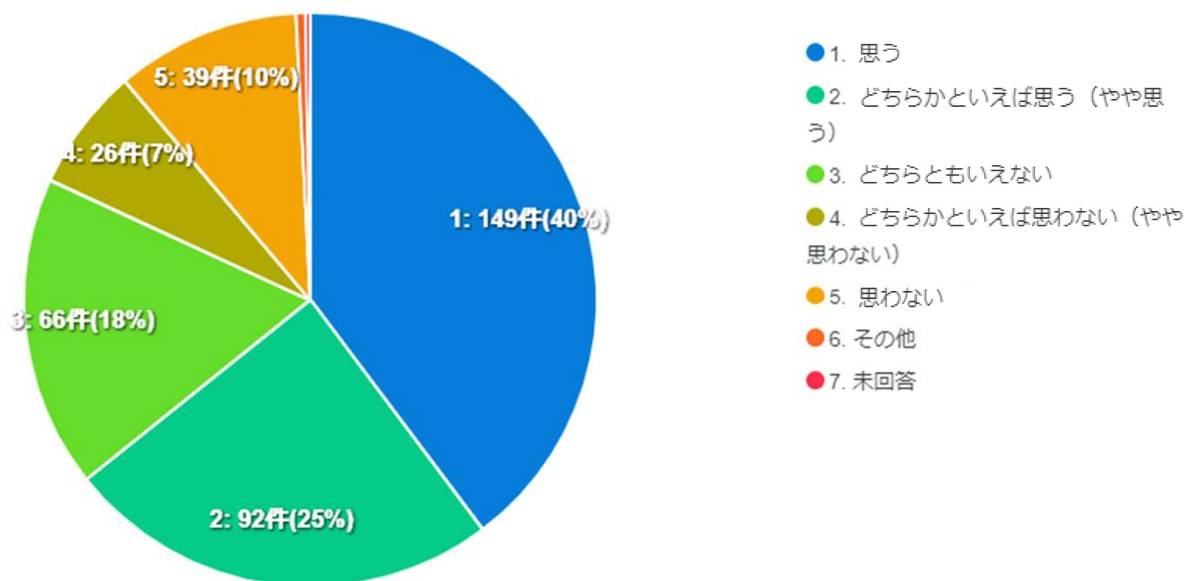
Q7 パートナーシップ宣誓制度について、富津市でも実施する必要があると思いますか？
(1つ選択)



その他（抜粋）

- ・全国の自治体でパートナーシップ等の制度が導入されてくれば国の制度等を変えるきっかけにはなるといいますので意義はあると思います。

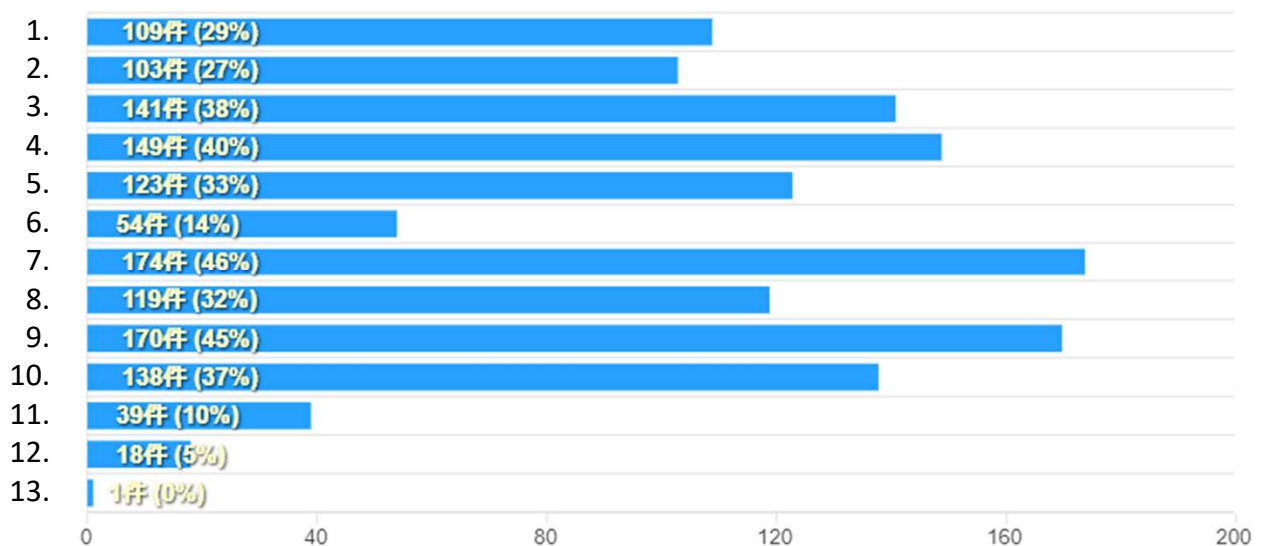
Q8 パートナーシップ宣誓制度の対象者に事実婚カップルも含む必要があると思いますか？
(1つ選択)



Q9 性の多様性に対する理解の促進や支援のために、どのような取り組みが必要だと思いますか？（複数選択可）

選択肢

1. 市民向け講座・講演会の開催
2. リーフレットの作成・配布
3. H PやS N Sを活用した情報発信
4. 性別にかかわらず交流できる場所づくり
5. 市内公共施設で受けられる相談窓口の設置
6. 市外で受けられる相談窓口の案内
7. 性別による区別への配慮（性別に関係なく選べる制服、多目的トイレの設置など）
8. 書類やアンケートにおける性別欄の見直し
9. パートナーの関係を宣誓できる制度の創設
10. 行政職員や教員の研修の実施
11. 特にない
12. その他（）
13. 未回答



その他（抜粋）

- ・ 保育所、小中学校での性教育の導入。子どもの頃から教育し、社会的に認容される社会をつくるべき。
- ・ 学校教育を中心に理解を深める授業等を行いつつ、保護者も一緒に学ぶことが出来る仕組みづくり（次世代以降の理解を深めるための教育・啓蒙活動）。
- ・ 異質なものとして扱うのではなく、誰もがフラットに普通に受け取れることができること。知識がないことによって、地域から疎外されてしまったりするのは望ましくない。色んな人がいることを受け入れる知識と心は必要だと思う。
- ・ 相談窓口は、対面より電話での相談窓口を設けた方がよいのでは。
- ・ 性や共同生活（相互扶助）を営む複数の者の縁故等の関係性を要件とする制度の再点検と見直し（性別・縁故等を要件とすることが身体的特徴等物理的に区別すべきものの以外のものは要件を変更するべき）。
- ・ 婚姻届なくし、全てパートナーシップ宣言とする。
- ・ 富津市として何が出来るのか、したいのか、伝えたいのかの意思表示。

Q10. 性の多様な在り方に関して、ご意見など自由にご記入ください（400文字まで）。

表 Q10回答（抜粋）

分類	意見等
1. 肯定的 意見	富津市でもパートナーシップ宣誓制度をぜひ導入してほしい。書類の性別欄に、男女以外の選択肢を入れることは、性的マイノリティの存在をそれ以外の人が意識するきっかけになると思う。
	「～であるべき」など根強い偏見や先入観があると思う。時代に合わせた柔軟な対応が必要
	程度の差こそあれ、だれにでも偏見がある可能性はあるし、実は自分のことをよくわかっていない可能性もある。実は、ひとりひとりがそれぞれ一つの性、というところまで来ている感じがする。
	私はLGBTではないので宣言、対応については関心はありません。近くにいたら自然に振舞いたと思います。 環境整備も必要と思います。
	どのような生き方の人でも、等しく権利を持つ。現実の社会、世間を考えると、すぐにでも対応策を出すべき。熟慮してとか慎重に、などという言い訳は逃げ道。
	しあわせ人が増えるだけなので、ぜひ進めていただきたいと思っています。今結婚を考えている世代への施策は、富津市にとっても税収面などメリットがあると思います。対象になるのは若者の層が多く、人口の流出を止める要素のひとつになり得ます。また、事実婚の人たちのカバーもできるとしたら、もっといいと思います。彼らは苗字が違っただけで、行政から家族らしい扱いを受けてきませんでした。LGBTQ+に属する彼らは、多数派の人と同じように尊重されるべきです。すべての人が自分らしく生きられる社会になるように願っています。
	この国でもようやく法的弱者の方々へ、公的に権利を認める流れが自治体レベルで行われる様になり喜ばしいと思います。富津市が自治体として性的マイノリティの方々の法的権利を守る事は、ひいては他の法的弱者の方々をも守っていく事になると希望を持てます。これからも実務レベルで性的マイノリティの方々に寄り添っていける体制作りに邁進して欲しいです。それが富津市の大きな魅力の一つになる事でしょう。
	性同一性障害の事かな？又、同性愛の方の事かな？と思いながら回答しました?偏見だけは、絶対有ってはならない??人と人であり、尊重するべきで、軽視せず、取り組んで頂きたいです??m(_ _)m
	正直に申し上げれば、身近に特にそういった方々を知らないので、特にどうしたら良いのかが さっぱり分かりません。映画や小説など創作物ではなく現実存在していることも認識していますが、性だけではなく人種や国、宗教などを含め、ありのままを受け入れることが どんなに難しいか。それでも、富津市が挑戦するというなら応援しております。
	研修で性的マイノリティの割合は左利きやAB型と変わらないと聞き、とても身近だと知った。 自分の子どもや友達がそうだとした時にも、偏見なく生活しやすい社会であって欲しい。
	世論全体の同意を得るには困難が伴うと思いますが、少しでも前に進めるには、行政が主体となり、長期的、継続的に粘り強く取り組む必要があります。反対の声に怯まず、信念を持って対応して下さい。性の多様性を認識して、許容範囲を広げることは、俯瞰すれば誰でも生きやすい生活に繋がると思います。
	偏見を持たないこと 人間には色々な性があるんだと自分に言い聞かせる
	誰もが自分らしく生きていけるように、差別や偏見がない世の中になってほしいです。
	性別の問題だけではなく、血縁関係があるという条件でしか、キーパーソンとして受け入れられていない状況を改善する使命があるとおも う。市としての姿勢を明らかにするべき。キーパーソン不在の人はこれかも増強し、その人の代弁者として血縁関係がない人が判断しても良いという体制、それに対する対応策を考えなければいけないと思う。その事を認めないと、医療機関の調整など限りある資源を無駄に占拠することになる。
	ジェンダー主流化アプローチをしながら寛容な制度設計をしていただきたいと思う。選択肢の多い社会が豊かな社会だと思います。
	男らしい、女らしい、とくくるのではなく、ひとりひとりの、得意な事、苦手な事、お互いにカバーしていける世の中になっていけたらいいなあと 생각합니다。1人で、生きて行く事は、できないので、まわりの人に優しくできる、自分の中の、普通?あたりまえは、他の人に無理強いしない…自分と違う考えを、排除するのではなく、そういう考えもあるのか。とお互いにちょっと歩みよれたら、いいと思います。
	人間対人間という概念で、関わればよいのではないのでしょうか。同じ人間として社会資源が使える世の中、安心して生きられる社会になるといいとおもいます。
	パートナーシップやファミリーシップ制度を導入することで多様性に配慮した新しい富津市に期待しかありません。元々の市民はもちろん移住者も増えるといいです。未来志向でいきましょう！！
	生物学的に男性と女性があるのは当然ですが、心とカラダが一致しない場合は周囲の寛容が必要だと思います。
	人としての 尊厳を大事にしてもらいたいです 私の友人にも 苦しんでいる方がいて この風潮は好ましいです
	恋愛に性別は関係ありません。性別じゃなく人として相手を好きになるからです。
	相手の立場になって考える(もしも自分だったら)ことが必要だと思う。弱者を大切にす市の市民でありたい。

表 Q10回答（抜粋）

分類	意見等
	他の自治体の事例では、パートナーシップ等宣誓制度ではなく、パートナーシップ等制度等の表現をしている自治体がある。宣誓することが目的ではなく、パートナー関係、ファミリー関係であることを認めることが目的だと思いますので宣誓という表現はない方がよいと思います（婚姻届に倣い届出制度とか）。性の多様な在り方については、性的マイノリティであるか否かにかかわらず、当人の幸福追求が他人の幸福追求を阻害することがない限り基本的な人権として尊重されるべきであると思いますので、性別による合理的な区別（身体的特徴により配慮すべきもの）をのぞき、官民間問わずサービスの設計の際に差別がないことを基本としなければならない、性的マイノリティの方という枠に当てはめるのではなく一個人として見る（性的マイノリティであるか否かはその方の為人の一部でしかない）ことが重要ではないでしょうか。 性の問題については本人の意思や考え方に任せるしかないと思うので特別視するのではなく一般の人達と変わらない暮らしができるような法律や条例の整備が必要と思う。そして、人間として生きている以上、周囲の人達全員に理解を押し付けるような啓発はやめたほうがいい。 共生社会に必要な制度です。多くの人の参加を得た上で実現していただける様をお願いします。 特別視する必要はないが、わざわざ差別する必要もないと思う。男女感の恋愛と同じわけだから。 性の多様化に否定的な人達はそもそも講演会やSNSなどに参加などしない。これらは時間が解決していくと思う。まずは受け入れる体制を早急につくるべき。 普通！この言葉自体自分にとっての思い！だから、性でなやむ必要が無く、そのままの自分でいいと思う。それが自分にとっての普通！だから。心が女性!男性産まれもってきたそのものを大切に、周りに居る両親!友達!仕事場の方々、自分はこうだけど！こういう人達もいて社会が出来てののだと理解を深めて行く事が大事と思う。 私はパートナーシップ宣誓について賛成の立場です。東京文京区にてパートナーシップ宣誓をしているカップルが、交通事故による被害者参加制度に参加できないと言うニュースをみました。この様な状態でパートナーシップ宣誓が果たして意味を成すのか疑問に思います。流行に乗りパートナーシップ宣誓を導入するのも良いのですが、まずは法整備を国に働き掛けるのが先ではないかと思います。 たとえば、海外では同性婚の方が里親となって子どもを育てています。男女で子どもができてても育てられない方が多く居ます。社会全体で少子化を考えるなら多様性を選ぶ時です 私はセクシャルマイノリティの集うシェアハウスに富津市で暮らしています。今は暮らしやすいとは言えない世の中なので、検討して頂けることがとても嬉しいです。少しでも多くの人々が楽しく暮らせるようになる事を祈っています。 パートナーシップ宣誓の導入は進めるべきだと思います。多様な方を受け入れる度量のある富津市であってほしいです。公共施設の多目的トイレの整備は急務です。学校を含めてトイレは重要だと思ってます。 自分は性的マイノリティではないが、自分の子供がそうだった場合に、受け入れられない社会だと生きていきづらいと思う。性的マイノリティの方もそうでない方も特別扱いされずに普通に生きていける世の中になってほしい。性的マイノリティだからといって人に劣る訳ではないのに、差別するのは幼少期からの教育が足りないと思う。個人が発信していないだけで性的マイノリティの人口は多いと思うし、何より本人が1番悩んで苦しんできたと思うので、そういう面にも配慮できる教育をするべきだと感じる。 申請書の性別は、生物学的なものとして今後も記載はあっていいと思う。 入院時の緊急連絡先や保証人の面の手続きなどの面からしても、パートナーシップ制度はあるべき。 この制度を利用して大々的にネットなどでも発信して、移住者も増えるかもしれない 現在、木更津市などではパートナーシップ制度がありますが富津市はありません。これは誠に遺憾なことであり、この街に生まれてよかったとは到底思えません。私はパートナーシップ制度の創設は急務であると考えております。行政職職員や教員への研修はもちろん、市民への講座開設も急務であると考えます。また、書類等の性別欄の見直しも必要です。富津市がほかの市より遅れを取っているのはとても恥ずべきことです。 よく分からないのですが、当事者の方は苦しんでいらしゃると思います。生きやすい社会になればと思います。 私は、90年代にはロンドンでゲイの人々を身近に見てきた。2000年代にはアメリカでゲイカップルの結婚式に参加した。つまり特別な事ではなく普通の事でした。最近の日本ではマイノリティに配慮しすぎてマジョリティが不便を感じる事例が増えている。例えばトイレの無性別化や公共施設の入浴など。民主主義国家である以上、マジョリティを支持した上で、マイノリティを特別視から普通へと変えていく事が望ましいと思う。 富津市ではまったく進められてないと感じることが多いので、専門家に頼ったり、官舎の若い職員の意見を取り入れて着手してほしい。50overの職員の方々も馬鹿にせず取り組んでほしい。 今の世の中色々な人達が沢山います。その人その人が住みやすい環境を作ってあげる事も大切だと思う。それには行政の力を借りるしかないと思います。 誰もが安心して暮らせる社会を望みます。それは一人ひとりの生き方を尊重し、認め合うことが必要です。 人それぞれ 個人尊重 社会の理解促進も大事かとは思いますが、まずは、病気や災害など有事の際に性の多様性が許容される社会の仕組みづくりが大切ではないかと思っています。

表 Q10回答（抜粋）

分類	意見等
2. 非肯定的意見	この制度をもって多様性が確立される事はないし、分断や偏見が生まれると思う。富津市では取り組まないでほしい。
	少数の声の大きいマイノリティにより大多数の市民の生活に影響を及ぼす条例案には反対。レズやゲイが子供を持った時、その子や更にその子孫が自分の出自を知る事が出来なくなる可能性が有る。今のままで何が問題か理解出来ない。また、女子トイレに男性にらしき者が入って来た時に自分の娘や家族が違和感を持ったり不快に思うのは許容し難い。誰もが活躍できる社会は必要だと思うしLGBTの権利は守るべきだが声の多きすぎる主張はいかがか？日本人は大化の改新の17条憲法『和を持って尊しとなす』や明治の5箇条の御誓文など元々多様性を認めて来た数少ない民族。地球上では何億年に渡りほとんどの場合『雄と雌』しかいなかった。悠久の歴史を捻じ曲げるべきでは無い。性急に制度を作るよりもう少し時間をかけて行政職員や市民の理解を進めてから検討すべき。そもそも職員のほとんどがこの問題に理解出来ていないのに成り行きで進めるべきでは無い。
	性転換してまでの悩みなのか理解出来ない 仮に自分の身内に性の悩みを持っていれば行動や身なりを注意する 芸能人で性に悩み自殺した若者もいるので安易にパートナーシップとかではなく 性の悩みの病院をきちんと開設し親からもらった身体と命を大切にすることが良い
	LGBTへの理解増進や権利拡大の運動は、“文化共産主義(文化マルクス主義)”から派生したもので、伝統的な家族の形骸化(家族解体)を目指した、“文化革命”です。出生率が落ちて、少子化が加速します。外国人移民の受入れと同様で、富津市に取り入れるべきものではないと思います。“LGBTQ+”という言い方の方が好ましいという人もいますが、そう言ってしまうと、そこには、「自分の性別がわからない」とか、「自分の性別を考えない」とか、「自分は男性でも女性でもない」という人も含まれてしまいます。狂気の世界です。トランスジェンダー経験者の『トランスジェンダーは存在しない(=性別は変えられない)』という言葉は、重く受け止めるべきだと思います。事実関係は、最重要で、それを無視した施策や法律・条例は、あってはいけません。欧米からの変な宗教に引っ掛からないように気を付けてほしいと思います。
	多様性を認める必要無い
	今回の人生で与えられた性別と身体で生きていくことが大切だと思います。
	パートナーシップで生きづらいと考えている方にばかり配慮された結果、返って生きづらいのではないかと考えています。多様性トイレを使う者は「それに該当する人だ」という目です。男性用トイレに個室を設ける、手術費用の補填などが先と考えます。言ったもの勝ちでは、反面怖い思いをする者もおります。性による身体、力や内臓の違いもあり一概に「性別欄廃止」も賛成できかねます。名前を変えるハードルも低くなりました。性を問わないパートナーは賛成ですが、結婚という法的手続きは個ではなく「生まれてくる子」への手続きでもあって本来何を置いても大切にされるべき「子の心（成人まで）」に重きを置く結果が、多様性が当たり前と感じる未来へ繋がると思います。生きづらいのは性的なことだけでなく誰もが様々な理由を抱え、法に沿い個々が合わせる努力をしています。他の市が進めているからと安易に考えず根本に目を向けた政策を望みます。
	生物学的に理解しがたいが、他人のことなのでどうでも良い。
	既存の国の婚姻制度があり、同姓愛の制度を拡充することは、各種控除制度のあり方など国の土台を覆すものと危惧する。諸外国の例はあると思うが、日本は主権国家なのでそちらに流されることはあってはならない。
	事実婚やパートナーシップ制度を作っても、配偶者控除などはいくらもありませんので、自治体としてやれることと意味は少ないと思います。
	近年のマイノリティの担い上げ方を見ていると、過剰な気遣いをするくらいなら放っておいてくれた方がよいと感じることが多い。過干渉のない社会づくりをして欲しい。
	性の多様を求める自由もあれば 性の多様を拒否する自由もあると思う 本来の性から外れるのだから周囲の反応が厳しいのは当たり前 それで差別だとは思わない 男同士が 女同士が 目の当たりにしたら私は気分を害されます 男女差別だと言う人がいるが 女だから男だからを理由に相手を非難したり 責任逃れをするのは間違い
	男性と女性が結婚するのが当たり前。時代は変わったと言うが、同性婚が当たり前になってほしくない。
	歴史的に元々欧米ではLGBTについて虐殺したりしていた。そういった後ろめたい部分があるのでLGBT(マイノリティ)を保護しようという動きになった。日本は元々LGBTについて寛容であるからして、日本が欧米にならう必要はそもそもない。ゲイバーなど元々あったし、マツコ・デラックスなど普通にテレビに出て受け入れられている。本当のLGBTは騒ぎ立てて欲しくないと思っている。騒ぎ立てたい人もいるだろうが、静かに暮らしたいLGBTの事は尊重されないのだろうか？身体的特徴が男性であるのに、女子風呂やトイレに入るのを許すのか？それは無理だと思う。新たな課題を産むためにLGBTについて論ずるのは税金の無駄。世論に逆行してると叩く層は居るだろうが、正しい決断をしたと讃えてくれる層も必ずいる。Qが今日は男性明日は女性などその日によってコロコロ変わるようなことに付き合いきれない。
	日本は昔からこの件に関しては暗黙の了解で言動して来たので今更何かをする必要性が無いと思います。海外とは文化も考え方も行動も違うのだから、敢えて何かをすると問題が起きると思います??
	生物学的性は男と女しかありません。このような事案は条例にせずに、個別に対応することで十分です。日本には合いません。
	富津市は人口が減少しているし、若い人は少ない。都会なら考えなければならないが、必要は感じない。全自治体しなければならないと政府から言われてるなら仕方ないが
	当事者に聞いてみ？そっとしといてくれてと言われるよ

表 Q10回答（抜粋）

分類	意見等
3. 理解の促進、啓蒙活動の必要性についての意見	性的マイノリティについての知識が乏しいことで偏見や差別が生まれると思います。私自身よく知りません。学校や職場で差別されないためにも、地道な広報活動が必要だと思います。
	パートナーシップ制度への理解は全国規模で徐々に深まると思われますが、市民への制度説明は慎重に進め、十分な理解を得たうえで制度の導入を希望します。
	中々、難しいですが、今の世の中、昔になかった様な事が多く、理解に乏しい世代も多いと思います。若い世代からの発信がもっとできると良いと思います。
	パートナーシップ制度の導入等、できることはなるべくやった方がよいと思いますが、周りの理解がないまま施策を進めていくより、まずと うか並行して、周りの理解を深めていくことが大事ではないでしょうか。自分は昨年性的マイノリティの方のお話を聞く機会がありましたが、性の多様性は当たり前のことで、性的マイノリティなどといった言葉さえなくなる世の中にしていかなければいけないと感じました。
	性の多様性に限らないのですが、人がメンタル面で不調となる原因の一つに、「こうでなくてはならない」というmast思考に囚われてしま うことがあります。生活するうえで協調はとても大切であると思いますが、自身が周囲のそういったmast思考に合わせて自分を責めること が生きづらさにつながると思います。人が生きていくうえで自身の可能性と領域を狭めなくてすむような、自己肯定感を持てる個性を尊重し た社会づくりが必要であると感じています。
	富津市のこの取り組みは良いと思う。これからの時代は、本当に性別だけではなく本当に多様性が大事だと感じる。特に10代は、誰にも打 ち明けられなかったり一人で考え悩んでいる子がいると思う。早く救ってあげないと その為にはまず周りの大人や学校の中から変わって いく事が大事で 防犯もそうだが、安全で子供が笑って安心できる町を作っていくのは大人の仕事！地域のボランティアの方には感謝したい。 みんな自分の事を優先しがち、特に大人が、だから子供に愛が伝わらない。もう少し、相手の事を考える心を持つだけで、明るい社会になる ような気がする。思いやりが足りないから、自分の心が痩せて余裕がなくなるのに、と思う。まずは学校教育から 道徳の時間をもっとも と増やした方が良い！クラスみんなで色々な意見を言い合える時間を！小中学校で道徳心をしっかり教える事が多様な時代にも、対応してい ける心が育つと思う。
	好きになったのが、異性という事ではあるが、世間一般からは理解されるにはそれなりの当人たちがまたその支援者たちの応援が必要だと考え ます。
	身近な問題なのだと皆が理解していくように、イベントのように広報したり、その時だけのアンケートだけでなく、常日頃この事について話 題にあげていく事で、特別な話題ではないのだと認識していければ良いですね。
	地方都市で、理解を深め、現実的な対応を進めるには十分に時間をかけ、入念な準備が必要と思われる。
	若い人達は学校とかで勉強をして性の多様化などわかっているけれども60歳以上のお年寄りとかはわかってないから凄く偏見な目で見ている 人がいると思うのでお年寄りとか誰が見てもわかるようなパンフレットとか冊子などを作成して欲しいそれによって子供達が通う学校などで も世の中には色々な人があると言う勉強もしてほしいです。
	富津は高齢者割合が高く、理解を得られにくい環境ですが、だからといって新しい時代に取り残されないように啓発活動をしていくべきで す。富津市このままだと新しい人材が来ずに人口も財政も破綻するでしょう。
	女性は子供を産むのが当たり前 少子化問題もあるのはわかるが 昔ながらの考えそれを小さい時から聞いて育ってきてる人 亭主関白な家 で育った人は、身体と心が違う事に罪悪感を感じる 昔ながらの考えに偏った人達が多い 富津は特にその傾向が強い カミングアウトした ら近所の噂で家族に迷惑かける。田舎に個人情報なんて無い
	最近理解ある人も増えてきたがまだ上の世代ほど拒絶反応が多い。時代による刷り込みも多いと考えられる。富津市は高齢者の数も多いの で講演やリーフレットなどで地道に知ってもらう必要があると思う。また、制度を導入した場合、直接の窓口になる市役所等の職員に徹底し た教育が必要だとも考える。申請時のトラブル等を避けるため。
	既に実施されていたら申し訳ないのですが、性の多様な在り方について、市民が受け入れる余地があるのか、調査した上で施策を検討される のが良いと思いました。 もしくは、市の判断としてということであれば、狙いなドメッセージを強く打ち出すことも必要かと思います。
	性の多様性についてどうしても受け入れられないという人は一定数いるが、その人たちに理解を求めるよりも理解し共感し得る年齢層やカテ ゴリーの人達への啓蒙を行政主導で始めると良いのではないだろうか。もはや人口減に歯止めがかからない我が市にとって、小さな自治体で あっても見識の高い、公平で公正な社会作りをしているというアピールは決して悪くはないはずである。それにはまず市の公務に関わる職員の 皆が知識を高めより理解を深めてこそ、当事者の方々へのサービスがより良質なものになるのではと思う。今後の市の取り組みに一市民とし ておおいに期待する。
	ごく普通にコミュニケーションができる環境になるまでには様々な問題が出てくると思う。時間もかかると思う。大事な事は雰囲気作り。 又、その人達が何を考え、何を思っているのかを聞く機会も必要と思う。
	過剰な対応をしすぎると、分断を煽ることになるので、慎重に考えるべきだと思う。余りに境を無くしすぎると、一般の人にとって暮らしに くくなる。そもそも歴史をみれば同性愛等、日本は古来より性の多様性に関して寛容です。一部の諸外国や宗教などにみられるように、同性 愛自体が法律で禁止されているわけではありません。

表 Q10回答（抜粋）

分類	意見等
	最終的には未来を担う子どもたちが「色々な人がいることは当たり前のことでしょ?」「自分とは違うかもしれないけどそれもありだよ」と考えられる環境整備を。分けること、が差別でないのであれば、たくさんの方の選択肢から選ぶ自由であってほしいし幅を持たせて柔軟性があるといいと思う。先駆けにぜひ富津市はなっていきたいです。 私自身は、昔から好きで応援しているアーティストが自分はゲイであると最近公表したことでLGBTQ+については身近に感じています。私のように比較的若い世代は身近に感じる人も多いと思いますが、お年寄り等の年齢が上の方は理解できずに偏見を持つ人がまだ多い印象です。生きやすい世の中になるには、若い世代だけでなく高齢の世代に対してもわかりやすい理解しやすい講演等の開催が必要だと思います。 今までのあり方の考えをすぐに変えるのは難しいことに感じる。主観的な意見だと多様なあり方についてはあってもいいと思うが、その考えの主張が過激な人達や団体の存在を見かけたときにその主張についてマイナスの印象を持ってしまっている。ゆっくりとそれが普通なんだと浸透していけるように主張していればいつかそれが当たり前の世の中になると思う。 偏見や誤解をなくす為に発信することが大事だと思います。生きづらさを抱えている人が存在することを一人一人が理解できる社会であることを願います。 一般市民の意識改革の為にセミナーや講演会の開催。当事者がオープンに暮らせる街づくりをする。 成人のみならず、児童などの子供に対しても配慮や対策が必要 全ての人が生きやすい世の中になって欲しいです 若い世代は大半が許容していると思うが 中高年世代に根深い偏見があるので その世代に対しての取り組みが必要だと思います 制度や教育により少なくとも、性的マイノリティの方々が差別や偏見を受け、生活のしづらさを感じる社会は是正していかなければならないと思う。書類やアンケートの性別欄やリーフレット配布、情報発信等できるところから進めていくべきだと思う。
4. 教育 について の意見	性の多様性を幼い頃から学ぶ必要があると思います。ジェンダーや性について正しい知識を身につけ、多様な性があることを知ることで、他人を攻撃する、他人から攻撃されるリスクを減らせると思います。各保育所や小中学校に性教育の絵本を設置したり、性教育YouTuberのシオリヌ氏など外部講師を呼んでの講演の導入を希望します。 学校教育による低年齢からの教育により、マインド形成が必要だと思います 教育現場（特に初等教育など性の自覚について完成されていない子どもに対して）では、性の多様化について教えることに不安がある。 LGBT等、子供の頃から特別なこととして、捉えるのではなく、違和感をなくさせることが大事だと考える 幼い内から性の多様性のLGBTへの理解を深めていく必要がある。 性に限らず、一人ひとり違って当たり前の社会に変わっていくことが大切だと思う。大人が変わっていくことももちろん大切だが、次世代を担う若者の教育に力を入れることが将来的に「多様化を認める社会」へつながると思う。ただし、多様化を認めることだけを優先してしまうと男女共同トイレや入浴施設等で違和感を持つ人達を逆差別してしまうので、お互いの歩み寄りが必要不可欠。絶対に我慢しない！と互いが主張しあうことなく、お互いに少しずつ譲れたらいいなあと感じる。 富津市でもこのような取り組みをしていることにまず感謝。昔に比べると多様性の意識は高まっていると思いますが、それは私の周りの人々が意識高い系?だからかな、とも思います。性の問題に関わらず、皆違って、皆いい!という言葉が浸透するといいですね。まずは教育から。保育所、幼稚園からスタートしましょう。期待しています。がんばれ? 子どもの頃から学校での授業や講演会を通して理解を深めていくことが大事なのかな、と思います。 今後の世界情勢を理解するためにも、義務教育過程から、意識を変えて行くことが必要
5. 設備等 について の意見	大変難しい問題ですが、人ごとと考えずに、身内に遭遇したらどうするかと、考える事が大事だと思う。先日ドラマ見ました。映画もあったんですが。俳優さんが自然に演じてらして、違和感無かったです。差別は良く無いと思いました。 しかしトイレやお風呂は別の問題です。性犯罪もあり、見た目や外見に添ってもらうしかありません。女性トイレに男性は！心は女性でも無理あります。 トイレ、銭湯など、男女別と男女兼用があれば良いと思いますが、犯罪などのリスクもあると思いますので、対策等をしっかり考えてからが良いと思います。 公共の中では肉体的性別を優先させるべきだと思います。例えばトイレや銭湯、更衣室などは肉体的性別で分ければ、不快な思いや犯罪は軽減されます。性自認が男性で肉体が女の人更衣室や銭湯にわざわざ入って行くことはしないと思います。それは肉体が女性の場合、性犯罪に巻き込まれやすいからです。性自認がいずれかであっても、性犯罪の被害に遭った場合、望まない妊娠をしてしまうのは肉体が女性である人です。この観点から、性自認と肉体的性別は別と考え、公共性の高い施設では肉体的性別での利用を促すのが良いと思います。しかし、制服などは性差なく自由に選べるべきものだと思います。 性の多様な在り方については賛同。偏見や差別等による生きづらさを緩和する制度の導入・法整備も賛同します。 但し、例えば制服やトイレ、風呂など、公共性のあるものについて、全てを平等に導入することには反対。悪意を持った者が、なりすましで侵入し、性被害等の犯罪行為が増加する恐れがあります。 あらゆる多様性を認めることが正義ではなく、弱者の救済または底上げが正義です。性多様性にかかわらず、あらゆる分野において、一定の偏見や差別は存在します。それは根絶することが不可能だと前提する必要がある。偏見や差別そのものを悪として画一的に平等化すれば、悪意ある者によって別の弱者が被害を被ります。自由に選択できる社会は素晴らしいですが、秩序維持を優先した一定の線引きが必要だと思います。

表 Q10回答（抜粋）

分類	意見等
	昔は性に関して、こうであるべきだという固まった常識があり、現在それに悩んでいる人がたくさんいると思います。また、他と違うことによる虐めがあるのも事実です。少しずつ認知度が上がり、少しは生きやすくなったのかなと思ったのですが、自分は心は女だと言い張る男性が女風呂で事件を起こした、という記事を見かけとても悲しくなりました。これではLGBTへの印象が悪くなり、やはり男女ははっきり区別すべきだと思われてしまいます。だからと言って、私はLGBTですと公式な書類を作り、その書類を持っている人が共同の施設を使うのも差をつくっている気がしてこれが多様なのかと疑問に思います。誰もが安全で自分を偽ることなく安心して暮らせる世の中になればいいなと思います。 例えば「男は男らしく」等の固定概念を持つ方に、その考え方を变えてまで新しい考え方を受け入れなさいというのは、この制度の趣旨に反する。一方で、「男なのだから男らしく」の概念に疑問を感じている方が、公言出来ない世の中は生きづらさを生じさせる。お互いの考え方を寛容出来る世の中を作っていくことが大事。日常生活におけるトイレや更衣室問題については、例えば「男であっても、他の男性と一緒に使用することを気にする」方もいると思う。そういった方への配慮含め、公共のユニバーサルトイレを増やし、誰でも使用して良いといった形を作るべき。事実婚カップル等も含めて、従来の男女の婚姻と同等程度の行政支援が受けられる仕組みも考えていくべき。国の在り方を大きく変容させるので様々な意見があるが、多くの方々が生きやすいような新たな仕組みを作っていくべきと考えるので、富津市には積極的に取組んでもらいたい。 女性トイレに手術をしていない男性が入ってくるようなことは絶対にやめて欲しい。公共の設備は生殖機能に基づいて区別するべきだ。女子トイレや授乳室に女装した男が入ってくるのは恐怖だ。それなら、男女共用設備を新たに作るべきだ。手術を行っている人が女子トイレを使用することは全く問題は無いと思う。精神的でなく、肉体的に考えるべきだ。トイレで用を足すのは頭でなく体だ。第一、欧米諸国ではピンク等を身につけていたらゲイ扱いされるが、日本ではファッションと感じるだけだ。男同士で旅行に行くのだって普通に感じるが、欧米諸国ではゲイと思われる。そもそも、日本は欧米諸国とは違い寛容的なものだから、これ以上騒ぎ立てる必要も無い。 私は性的マイノリティではありませんが、固定観念で他人の生き方を批判しない世の中になればいいなと思います。 人は人、自分は自分と考えられる人が増えてみんなが生きやすい、活躍しやすくなるといいです。 ただ入浴施設やトイレは外見（性器）が異性の人が入ってきたら不安になりますので多目的トイレを利用できるような配慮があった方がいいと思います。
6. 服装についての意見	LGBTで悩んでいる人がいるのは知っていてカミングアウトなどしやすい環境にする事は大事だと思う。 それとは関係ない人でも制服でスカートを着たくない人もいると思うので中学校や職場でも選べるようになったらいい 学生服の選択肢を個人の自由に変えていくことは必要なのかなと感じます。ズボンは長丈、スカートは膝丈だけでなく、膝丈ズボン、ロングスカートなど、どちらかを選ぶだけでなくその種類も選べる時代になると、周囲の目を気にすることなく、学生が学校に通いやすくなる未来になる事を期待しております。 富津市民のため、従事して頂き感謝申し上げます。
7. その他の意見	パートナーシップはよいと思うが、ファミリーシップは、お互いの連れ子以外の子供の認可については、虐待等の懸念を考え、慎重になるべきだと思う。 性的マイノリティの方も生まれながらのものだから他に何人も人として差別することがあってはいけないと思います。 ただ心配なのは札幌の事件の被害者のようにフリをして暴行するという人もいるのだと知ったことでした。 男性、女性の2様の本来的な在り方を精神的にも肉体的にも当然視していますが、時代の変化に連れ男女間の精神性が変わって来ました。当事者間の合意に基づく事象から、法的権利の主張が全面に表れて来っていますが、第三者が入り込む余地は無いと感じています。法改正の必然を主張していますが、多様化する男女の主張を少数者の問題と捉えるなら当事者間の多岐に亘る問題点として改善するしかないのでしょうか。国民の殆どは余り関心は持って無いのでは。 市民が行政に聞いた時曖昧な答えでなく、きちんと納得のいく答えを貰えるようにして欲しい。 実際に見たことがないのでわからない。当事者がどう思うか？また、一般人には理解できないと思うので、そのような人の意見がないと模範にならない。 捉え方が広域で難しいです 当事者の考え方、お悩み、相談依頼の例などを知りたい。配慮がどこまで足りているのか、いないのか？今の知識では意見出来る立場に無い。 身近にいないので わからない。まだまだどうしていいかわからない人が多いとおもう。 理解できない。